

備中ささげのハウス栽培展示（継続8年目）

帯広市川西農業協同組合

1 目的・背景

「備中ささげ」のハウス栽培での収量性を継続調査する。

2 試験場所 帯広市川西町 帯広市農業技術センター

3 試験方法

- (1) 品種 「在来種」
- (2) 試験面積 1.4m（畦幅 70cm×2 畦）×10m 14 m²、 1 畦 20 株
- (3) 栽植密度 畦幅 70cm：株間 50cm（2,850 株/10a）
- (4) 作型 ハウス平畦栽培
- (5) 種子量 株間 50cm 区：1 畦 20 株×3 粒×2 畦 小計 120 粒
- (6) 施肥量 豆用 2 号（4.5--13.0-4.5）80kg/10a：全層施肥
要素量(kg/10a)；N 2.4 - P 20.0 - K 10.4 - Mg3.6

4 耕種概要

施肥	は種	支柱	誘引	防除回数	収穫開始	根切り	収穫終
5月22日	5月23日	6月25日	7月19日	4回 (虫4病1)	8月27日	9月27日	10月4日

5 生育・収量調査

- ① 昨年と同時期に蔓化が開始したが昨年2回行った誘引を1回で行った。
- ② 開花は昨年より6日早く始まり、地上部生育はきわめて旺盛で、収穫期間は10日間長くなった。
- ③ 収穫期間に比べて莢数の増加が緩慢だが、莢は大きく1莢内粒数が多かった。
- ④ 製品収量も増加した。

年度	開花始	収穫期間	総収量 (kg/10a)	整品収量 (kg/10a)	左比	製品率 (%)	1 株 熟莢数
本年	7月24日	38日間	563	529	136	94	132.0
昨年	7月30日	28日間	420	385	100	92	121.8

6 考察

- ① 備中ささげの高温適性が非常に高いことが2年連続で確認される結果となった。
- ② 本年は、昨年多発したハダニの吸汁害が生じなかったことで、昨年を上回る整品収量となった。
- ③ 蔓化がはじまれば、生育は旺盛に継続され、本年もその後の灌水は不要と判断した。
- ④ 温暖化に対応し、ハウスを有効に利用できる作物である。

ハウス栽培における収量実績

年度	総収量 kg/10a	製品収量 kg/10a	製品率 %	100 粒重 g
R6	563	529	93	15.4
R5	420	385	92	
R4	296	286	97	16.2
R3	187	173	93	15.4
R2	360	353	98	17.6
R1	357	341	96	16.2
H30	212	200	94	15.1
H29	329	315	69	18.4



は種から7月上旬頃まで適時灌水

9月上旬の生育

